

## 建設建築委員会記録(No.16)

1 日 時 令和6年1月11日(木)  
午前10時00分 開会  
午前10時47分 閉会

2 場 所 第2委員会室

### 3 出席委員(8人)

委員長	泉 日出夫	副委員長	山内 涼成
委員	中島 慎一	委員	渡辺 均
委員	松岡 裕一郎	委員	木畑 広宣
委員	浜口 恒博	委員	三原 朝利

### 4 欠席委員(1人)

委員 西田 一

### 5 出席説明員

建設局長	石川 達郎	公園緑地部長	北島 徳隆
公園管理課長	藤本 将志		外 関係職員

### 6 事務局職員

委員会担当係長 中島 智幸 委員会担当係長 梅崎 千里

### 7 付議事件及び会議結果

番号	付 議 事 件	会 議 結 果
1	魅力的なまちづくりについて	建設局から別添資料のとおり説明を受けた。

## 8 会議の経過

○委員長（泉日出夫君） それでは、開会をいたします。

本日は、所管事務の調査を行います。

魅力的なまちづくりについてを議題といたします。

本日は、到津の森公園将来ビジョンの素案について、報告を兼ね、当局の説明を求めます。  
公園管理課長。

○公園管理課長 到津の森公園将来ビジョンの素案について御説明いたします。

タブレット資料の報告概要、到津の森公園将来ビジョンの素案についてを御覧ください。

1、経緯について。到津の森公園は、平成14年に開園しました。開園から20年以上が経過し、世界的な潮流である動物の福祉、生物多様性や自然の持続可能性などに取り組むSDGs、ワンヘルスなど、取り巻く環境は大きく変化しています。こうした状況に鑑みまして、次の20年の目指すべき姿を示すため、新たに到津の森公園将来ビジョンを策定することとしております。

2、3、4については、添付資料に基づいて御説明いたします。

資料1をお願いします。策定の取組と今後のスケジュールについて御説明いたします。

1、将来ビジョン策定の取組について、令和3年度、令和4年度に、現行計画の4つの基本方針について総括を行い、建設建築委員会に報告させていただきました。令和5年度は、策定作業を行っているところです。策定に当たりまして、昨年8月に、到津の森公園将来ビジョン策定検討会議を設置しました。構成員は、学識経験者、利用者、公募市民、動物園の専門家、近隣地域、市民ボランティア、こういった関係者でございまして、表のとおりです。これまで3回の会議を開催し、様々な御意見をいただきました。

また、11月には、将来の到津の森公園や、情報発信などをテーマとしました市民参加のワークショップを開催いたしました。到津の森公園のファンや日頃からボランティア等で支援をいただいている方など、年齢も中学生から高齢者の方まで、幅広い層の方に御参加いただきました。

2、今後のスケジュールについてです。検討会議などでいただいた意見などを踏まえまして、今回、素案を取りまとめました。今後、市民意見の募集を予定しております。また、今月20日には市民参加のパネルディスカッションも予定しております。これは、将来ビジョンへの理解を深めるとともに、より多くの市民からパブリックコメントの意見をいただくことを目的としております。その後、また建設建築委員会で報告いたしまして、公表を予定しております。

次に、資料2を御覧ください。将来ビジョンの素案について、本日は概要版で御説明させていただきます。

1、これまでの到津の森公園の歩みについて。到津の森公園は、前身の到津遊園の閉園が決定した際、多くの市民や市議会での全会一致の決議など存続を求める声を受けまして、本市が引き継ぎ、開園いたしました。開園に先立ち、平成12年に現行の基本計画を策定しております。ここでは、市民と自然とを結ぶ窓口となる公園を目指すを基本理念に、自然環境教育施設、市

民が支える公園など、4つの方針を掲げていました。

2、動物園を取り巻く環境の変化について、開園から20年以上が経過した現在、動物の福祉、生物多様性、それから自然の持続可能性、こういった園を取り巻く環境というのは大きく変化しておりまして、こういったことを踏まえまして、次の20年の目指すべき姿として新たな将来ビジョンを策定することとしております。

3、到津の森公園の強みと課題について、これまでの基本方針に関する総括、検討会議やワークショップにおいて、到津の森公園の強みや課題について様々な御意見をいただきました。

まず、強みです。1つ目は、動物サポーターや友の会、市民ボランティアなど様々な形で支えられているということです。自ら自主的に園内などで活動してくださっている市民ボランティアや寄附金など、いろんな形で多くの支援をいただいております。2つ目に、長い間、自然環境教育に取り組んでいるということです。特に、昭和12年、旧到津遊園の頃ですけれども、その頃始まった林間学園は、ほかの動物園には例がなく、しかも多世代にわたり愛されてきたという、そういった歴史がある活動となっております。それから、強みの3つ目は、都心から近い立地でありながら、緑あふれる園内であるということです。到津の森公園では、もともとあった緑を生かしつつ、これまでも計画的に緑あふれる市民の憩いの場として、そういう公園を育ててまいりました。

次に、課題になります。到津の森の強みを生かした運営・集客、それから環境教育施設としてのさらなる機能強化、多様な客層に向けたコンテンツづくり、動物の福祉に配慮した動物の飼育、展示の在り方などが挙げられます。

次のページをお願いいたします。今回の新たな基本理念についてです。現基本計画の基本理念を継承しつつ、園が持つ価値を高め、つないでいくため、かけがえのない自然や命を世代を超えて未来へつなぐ公園を目指すということを新たな基本理念として掲げます。

5、5つの基本方針と2つの取組姿勢について御説明します。

先ほどの基本理念を実現するため、新たに5つの基本方針を定めようと思っております。基本方針1、みんなに愛され、これからを一緒につくっていく、市民と共に歩む公園です。市民が支える公園という姿勢は継承しつつ、園に関わっていただく機会を設け、身近な公園として世代を超えて愛される場所を目指します。基本方針2、自然や命の大切さへの理解を深め、楽しく学ぶ、自然、環境の学びやです。動物の生態や豊かな自然を活用した多彩な展示やプログラムの提供、自然や命の大切さを楽しく学べる施設を目指します。基本方針3、その人その人に合った楽しみ方、過ごし方を生む、多彩な楽しみに出会える空間です。年齢やライフスタイルにとらわれず、人それぞれに合った楽しみ方、過ごし方ができる環境を整えます。また、近隣の他施設と連携しながらプログラムを企画するなど、地域全体で取り組んでまいります。基本方針4、動物がありのまま幸せに暮らすとともに、誰もが安心して過ごすことができる、動物も人も幸せな森です。動物の幸せと、人の楽しみのバランスを取った飼育、展示方法やプロ

グラムの在り方を考え続けます。また、小さな子供を連れた家族、若者、高齢者や障害のある人など、誰もが安心、快適に過ごすことができる環境づくりに努めます。基本方針5、高品質なサービスを提供し続ける、いつでも未来を見据えた運営です。集客力を強化し、収益向上に努めるとともに、民間活力を生かす取組を通じて、サービスの質向上や過ごしやすい環境づくりなど、園の魅力を高めるための好循環をつくります。

次に、取組姿勢についてです。取組姿勢といいますのは、新たな基本理念や基本方針の実行に当たり、常に意識しておく姿勢となります。一つが、園の強みを生かし、価値を磨き上げる。もう一つが、多様な情報発信と積極的なコミュニケーション。この2つを取組姿勢としております。今後、このビジョンを具体化するため、中期、短期の視点から具体的な取組を進めていきます。

それから、資料3に素案の全文を掲載しておりますので、後ほど御確認いただければと思います。

それから、資料4を御覧ください。最後に、市民意見の募集、パブリックコメントについてです。1月17日から2月16日までパブリックコメントを実施する予定です。

到津の森公園が、今後も市民の皆様にあいさされ続けるよう、引き続き魅力向上に努めてまいりたいと思っております。以上で説明を終わります。

**○委員長（泉日出夫君）** ただいまの説明に対し、質問、意見を受けます。なお、当局の答弁の際は、補職名をはっきりと述べ、指名を受けた後、簡潔、明確に答弁を願います。

質問、意見はありませんか。松岡委員。

**○委員（松岡裕一郎君）** 私から2点お伺いしたいと思います。

到津の森公園将来ビジョンということで、見直すということはすごくいいことだと思っております。その中で、今、北九州市政変革推進プランということで、総務財政委員会で様々、棚卸しであったり、対応の変化、効率性とか、他の施策との重複、妥当性、DXの推進とか、官民の役割分担であったりとか、公民連携という考え方が来て、このビジョンとの整合性について、同時期にあるわけですが、この点についてどのようにお考えか。大きく聞きたいと思いますが、方向性について、同時進行であります。建設建築委員会で議論した、答申が一遍出て案が示されても、市政変革が出されて、その後、見直しとか手直しとか、そういったものがないか。一番危惧しているのは、民間でできなくて、市民運動として市が引き受けたという、先ほどの御説明にもありましたが、これが市政変革によって、やはり民間にということになれば、歴史的からいうとハードルが高いようなことがあると思えますし、市民が支える、また、教育のルールとありましたけれども、教育的観点からすれば、やはり私は市が主体となってやるべきでありますし、企業からの寄附とか、そういったところで賄っていくものをもっと広げていくべきだと思っておりますので、その辺の考えがあれば教えてください。

もう一点、市民から支えられているということで、サポーター制度等々、様々ボランティア

の方に活動していただいておりますが、その中で様々な意見があると思います。ボランティアとか市民の助けがあって、今この到津の森ができております。そのサポーターの方の、市民の方の意見を通じて、いろんな制度があるとは思いますが、ボランティアの方が活動しやすい、掃除箱の充実であったりとか寄附をしていただく動機づけのさらなる向上、こういったものについて今お考えの点があれば教えていただきたい。今後の課題と対応策ということで、素案の中にも示されていますので、市民への寄附を醸成する方法の検討、寄附の見える化、参加窓口の拡大とありますが、この辺について御見解があれば教えていただきたいと思います。

以上、2点でございます。

**○委員長（泉日出夫君）** 公園管理課長。

**○公園管理課長** まず、改革プランとの関係でございます。到津の森公園というのが、先ほど委員がおっしゃったとおり、民間から引き継いだという経緯。それから、市民や議員の皆様からも応援をいただいているということ、さらには、貴重な動物を飼育しているという特殊性がございます。これはずっと守っていかなくてはならないものと思っております。市が主体で行うべきという考え方について変わりはありません。ただ、改革プランの中では、効率性であったり、官民連携であるとか、そういった視点はうたわれておりますので、そういった視点というのは取り入れる、そういったことには取り組んでいきたいと思っております。

それから、支えられるという意味で、サポーターであるとか、友の会やボランティアであるとか、金銭面ですとか、あと実際の活動面ですとか、本当に多くの方から支えられております。ボランティアの活動につきましては、森の仲間たちというボランティア団体が今100名超で活動していらっしゃるんですけども、このボランティアというのが、基本的に市とか、どうぶつ公園協会から支援を受けずに自分たちで頑張るといって、そういった姿勢で取り組まれております。そういった中で、私どもとしてもそういった活動のPRですとか、必要な支援といえますか、そういったものはボランティアの意見も聞きながら考えていきたいと思っております。

それから、寄附等の向上についてですけども、今いろんなインセンティブがございます。それから、いろんなPRも行っております。こういったところを、こういったものがより寄附の向上につながるのか、そういったことはしっかりと検討していきたいと思っております。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** 松岡委員。

**○委員（松岡裕一郎君）** ありがとうございます。市が引き続き主体となってということは私も同感でございます。その姿勢で。市政変革プランとの部分で取り入れる部分があるということで、これは今後変化があれば教えていただきたいと思っておりますし、役割分担、民の力を入れていく部分とか、その辺のところも、大きい方針は変わらないと思っておりますけど、その部分で変更等、またいろいろあれば教えていただきたいと思っておりますし、今の歴史からいうと、市民とか議会とか、これはしっかり報告して諮っていくべきであるということ指摘させていただきたいと思っております。

また、ボランティア団体の意見をさらに聞いていただいて、少子・高齢化であります。今まで支えてきていただいた方が高齢になって、だんだんできていかななくなるということもあるんで、しっかり増やす努力をして、高齢化の中でどうしてもやっぱり足腰、今どこの公園の愛護会もそうなんですけど、担い手をどう伝えていくかという課題もありますので、ぜひ現場の方々の意見を聞いていただいて、インセンティブも充実していただきたいと思います。1万円出すと家族6人行ける券があったりとか、それを大口の人はちょっと広げるとか、いろんなインセンティブの、これ例えですけど、いろんなニーズがあると思うんで、さらにインセンティブの向上を検討していただければと思います。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** ほかに質問、意見はありませんか。木畑委員。

**○委員（木畑広宣君）** 私から、市民が支える公園についてという部分で、先ほど松岡委員からもありましたが、動物サポーター、友の会等による支援の部分で、年間3,000万円近くの寄附があるということで、令和4年度末で7億円を超えたということ。ここ10年近くは増加傾向にあるとして、動物たちの餌代等、支援をしていただいておりますが、課題の部分で、市民、企業、団体からの寄附に持続性を持たせるために、サポーター制度の認知度を高め、積極的な寄附を募る必要があるというところでの、この対応のところなんですけど、寄附によって動物の飼育や施設整備が賄われていることを可視化し、寄附意欲を醸成する方法の検討ということの部分で、この可視化というところで、どのような方法を使って可視化をしていくのか、その辺教えていただければと思います。

**○委員長（泉日出夫君）** 公園管理課長。

**○公園管理課長** 友の会ですとか、様々な寄附をいただいております。こういったことは、動物の餌代であるとか、あと施設の補修であるとか、動物の導入であるとか、そういったことに使っております。そういったことのPRといいますか、お知らせというのは一定程度はやっているんですけども、それをさらに、例えばホームページで、この基金でこういう動物を導入しましたとか、こういう施設がよくなりましたとか、そういったことを具体的にホームページ等を通じてPRしていくと。そういったようなことでやりたいと思っております。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** 木畑委員。

**○委員（木畑広宣君）** ありがとうございます。サポーター制度の特典として年間パスポートというのがあるかと思うんですが、私の知り合いのある高齢者の方なんですけど、年間パスポートを使って、よく散歩コースとして利用しているという高齢者の方もいまして、その方が、身近な友人の方であったり知人の方であったり、すごいPRもしていただいているみたいでして、こういったこともぜひ皆さんにPRをしていただければいいのかなとも思いますので、よろしく願いいたします。

あと、物価高の影響なんですけど、餌代であったり光熱費であったり、あと施設のメンテナンス費用であったり、そのような今、物価高というのはどのような影響がありますか。

○委員長（泉日出夫君）公園管理課長。

○公園管理課長 物価高、特に光熱水費がございますけれども、やはり物価高という影響は受けております。これについては、必要な経費についてはしっかりと予算化したいということで努めてまいりたいと思います。以上です。

○委員長（泉日出夫君）木畑委員。

○委員（木畑広宣君）ありがとうございます。最後に1点なんですが、到津の森公園の強みを生かした部分で、より価値に磨きを上げていくということで、この磨き上げの部分について、何か今お考えの部分があれば教えていただきたいと思います。

○委員長（泉日出夫君）公園管理課長。

○公園管理課長 3つの強みのうちの、ボランティアですとか様々な形で支えられているという点、これ先ほど申し上げたようなPRとか、具体的なニーズを酌みながらしっかり取り組んでまいりたいと思います。それから、環境学習プログラムとか林間学園、これ今は小学生とかの子供さんが主なターゲットになっておまして、これを例えば中学生であるとか高校生であるとか大人であるとか、そういったところまでターゲットを広げて取り組めないかと、そういったようなことを考えております。それから、森を育てるというところ、これもいろんな木とか花とかを今どんどん植えていっております。こういったことを継続しながら、都会の中の森ということでしっかり育てていきたいと思います。以上です。

○委員長（泉日出夫君）木畑委員。

○委員（木畑広宣君）ありがとうございます。ぜひ強みを生かしていただいて、情報発信に努めていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。以上です。

○委員長（泉日出夫君）ほかに質問、意見ありませんか。渡辺委員。

○委員（渡辺均君）将来ビジョンは今のままで取り組んでいただいて結構なんですけども、以前、閉園に当たって、ここの到津の地区をどうするか、住宅地にするとかいろいろ議論が出たときが、私には記憶があるんですけども。そういう観点から、今大きく将来のビジョンを立てておりますけども、20数年たって、25年ですか。若松にもビオトープがありますし、若松グリーンパークですか、そういうのも随分時を経てきているわけですけども。動物園の運営のやり方としては、旭川公園とか、いろいろ話題になる山口県の、動物一つ一つ取っても、それで話題性を持ってきて観光客を集客するという意味では、動物公園としての在り方を大きく見直すというか、将来のビジョンとしてですよ。今のビジョンと並行して、将来どういう形がいいのか、町なかの一番真ん中に自然公園があつていいものなのか、それとも若松のグリーンパーク等ある隣接がいいのか、そういう併合した、要するに民間でも経営できる、その公園一つで観光客を誘致できるとか、そういうものを取り入れた中の将来ビジョンというのが私はやっぱり動物園のつくり方だろうと少し思っているんですけども。そういうのを、サポーターや寄

附金というよりも、民間でできる、収益がでる、観光客を呼べるというような、ちょっと1つ2つ大きめの、北九州市の中でも大きい土地が、福岡市動物園に比べて大きい土地があるわけですから、それを利用してやるべきだろうと思っているんです。

それに一番いいのは、将来10年後には、若松のグリーンパークに動物園と一緒に並行して持ってくるとか、ビオトープがあれだけのもので、あそこがあんな形になるとは私も思いませんでしたけども、形を変えて、10年、20年のうちにビオトープという形で観光客を呼べるというふうに自然を生かしたものがあるわけですから、連携してやれるような公園づくり、将来ビジョンを考えてほしいなというのが私の考えで。考えというよりも、以前にも何度か移転したらどうかとかという話もしておりましたし、広域連携では、添田の山奥を含めて、JR日田彦山線周辺に公園持っていったらどうかとかというような話もちらほしたこともあるんですけども。それは広域ですから、北九州の収益じゃありませんからひどく反対されましたけども。それから考えると、若松等、一度視野に入れて、この5年、10年、サポーターや寄附ということになったら、動物運営というのは一番厳しいということがすぐ目に浮かぶわけですね。民間でできて収益力があるというようなことを考えると、広大な連携して公園を楽しめる、動物を楽しむ、子供たちが楽しめる、大人が楽しめるというような、枠を外れた、大きく全体的な枠で公園を考えるといいなと思っています。

それから、シンガポールにしたって、夜間、動物であったり3つのエリアに分かれている公園がありますけども、そういうのをやっぱり、いい機会に見に行き、出たときに見に行き、いただいて、1割、2割でも取り入れるような形で公園づくりをやってほしいなとも思いますし。動物一つ取って収益が上がるというような、そりゃパンダが来ればすごい収益があるでしょうけども、そういうわけにいきませんでしょうから、それは一つ置いて。そういうふうな大きいものを踏まえて、若松辺りは工業地帯でずっと今まで何十年も、昭和40年代から埋立てで工業地ができていて、自然とかというものはないがしろにできてきていましたんで、若松区にこういう大きい公園等を、グリーンパーク等の隣接地に持っていけば、まだまだ違う意味では、ビジョンでも3年計画が5年計画、5年計画は10年計画で拡大していく公園が造れるんじゃないかなと思っていますんで、並行して取り組んでいただきたいというのが私の意見です。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** 公園管理課長。

**○公園管理課長** まず、到津の森公園の移転についてですが、到津遊園を引き継いだ経緯、その中で先ほど市民の方も含めていろんな検討があったということ。さらには希少動物を飼っているという特殊性。それから、今回のビジョンの検討の中では、町の中であって、こういうすばらしい動物の森があると。これもかなり強みであるということがたくさん意見をいただきました。そういったことから、今すぐここを移転させるという、そういった考えというのは持っておりません。



一方で、他施設との連携というところ、これ非常に重要な視点だろうと思います。今回のビジョンの中にも、それは必要だということを書かせていただいております。例えば、中央公園のいろんな施設ありますけれども、そういったところとの連携、それから委員がおっしゃったような市の他の施設との連携、そういったものはしっかりと連携を図りながら、より楽しい園にしていきたい、大きな枠を超えた連携をしていきたいと思います。

それから、民活については、P a r k - P F Iで南エントランスをリニューアルしたとか、そこに飲食店ができたとか、そういったような事例。それから、遊具については、遊具の部分は民間にお任せしております、いろんな施設の充実が図れてきております。こういった事例も踏まえながら、必要な民活についてはしっかりと取り組んでいきたいと思います。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** 渡辺委員。

**○委員（渡辺均君）** 取組はよく分かりますが、私は大きい、その中でお話しさせていただくと。若松というのは、たまたまと言ったらおかしいんですけど、取組としてグリーンパークは、こういうふうな取組ができてきましたけども、小倉南区には平尾台、門司港にはレトロ、小倉北区には競輪場があったり野球場があったりというような、一つのポイント的なものが区にあるわけですね。私は、若松にはグリーンパークという一つの売り物があるんですけども、そういうイメージでは、7区全体の活性化を見たときの一つの大きいポイントとして、到津の森公園を、町なかにある公園としてはすばらしいでしょう。これがじゃあ福岡の動物公園として同じようなレベルになるかという、全く違った感覚に今あるわけですね。だから、サポーターや寄附金で運営しないと、今後またこれがきゅうきゅうになって、餌代が足りないから動物が減っていくというような形が連鎖で起こってくるんじゃないかなと危惧しているわけですよ。そういう意味では、観光客を呼べる器を持った動物園にしないといけないのではないかなと。

動物一つ取ってもですね。一つ一つはすばらしいものを持っていると思います。昨年、ロータリークラブが50周年でインコを寄贈させていただいたときもいろいろ意見が出たんです。そういうのも含めて、今はモータリゼーションですから、昔は西鉄電車で通って、あそこは私たちが子供のときは随分発展した動物園だったんですけど、今はもうそういう時代ではなくなったような気がします。だから、それについていく、本当の自然を生かした動物と触れ合える、子供たちが触れ合える、大人が触れ合えると。よその動物園は子供よりも大人が率先して、旭川にしても、山口にしたって、熊本の熊牧場にしたって、子供じゃなくて大人が行きたいという形で子供を連れていくと。そういうふうな取組の動物園をつくっていくには、今のと並行して、これはすばらしい計画ですので、5年、10年のスパンで、じゃあグリーンパークはどうするかというのを執行部ですっと考えていただいて、それは議会の承認いただかないといけませんけども。そういうふうな形で、じゃあ少子・高齢化の中で跡地利用をどうするかと。あれだけの広大な土地があれば、また違うまちづくり、都市型まちづくりが一つ出来上がるかなと思いますんで、そういうことを並行して、連携して、これらのことを考えないと、まちづくりビ

ジョンはできないと思うんですね。だから、この中の一つ一つはすばらしいものができていると思いますので、連携して、手を組んで、並行してその中で10年計画でやってほしいなと思っています。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** ほかに質問、意見はありませんか。三原委員。

**○委員（三原朝利君）** まず、一番の指標としては来園者の数というものが一つの大きな指標になってくるのかなと思う中で、令和4年度、13ページを見ると40万人突破ということで、コロナ禍がまだ微妙なときに非常に御尽力をされたのかなと。再開園当初の数にまではなくても、それ以降では40万人突破というのは初めてだと思うんですけども、非常な努力をされたんだろうなと思います。そんな中で、まず、入園料を7月、8月無料にしたということなんですが、これはもちろんいい取組だと思うんですが、それによってどれぐらいの方々が来られたのかというのを一点お聞きしたいと思います。

それとともに、その場合であっても通常であっても、もし1家族来たときにどれぐらいのお金を落としていただけるのか。ぼんやりとした質問ですけど、何か指標があれば教えていただけたらなと思います。

とともに、もう一つが、入園料を無料としたことなどからということで、また別にこういう取組もあったんですよとかというのがあれば教えていただけたらなと思います。数をこの時期にこれだけ増やしたというのはすばらしいことだと思いますので、ぜひ教えていただきたいと思います。

今、いろんな委員からお話がありましたが、一番大事なポイントが、到津の森公園にしかない価値というものだと思います。私も勉強不足だったんですが、前身の到津遊園が開園して約90年ですね。2002年に再開園してから20年以上たってという中で、老朽化であったりいろんな問題がある中で、それこそ将来ビジョン検討会議で、市民ワークショップの中で、到津の森公園にしかない価値というのがテーマになったと思うんですけども、できれば、そこでどのようなものが、声が出たのかなというの、今分かる範囲で結構ですので、教えていただけたらなと思います。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** 公園管理課長。

**○公園管理課長** まず、来園者数についてです。昨年度の7月、8月で、お出かけ応援事業ということで、市民の入園料無料化を行いました。令和4年度は約40万3,000人、そのうち無料化で来られた市民というのは9万2,300人ぐらいということでした。それから、どれだけ効果があったかということですけども、令和3年度はコロナとかの影響があったので一概にははっきり言えませんけれども、令和3年度は7月が2万3,400人、8月が2万5,900人、一方、令和4年度は7月が3万1,600人、8月が6万人ということで、前年度比較ではかなり入場いただいておりますという状況です。

それから、入園料以外にお金をどれだけ落としているかということですけども、一人当た

りというのははっきり分からないんですけども、入園料以外の収入として1億2,000万円ほどの収入があります。40万人が1億2,000万円ほど入園料以外でお金を使っていच्छゃると、そういったような状況です。

それから、40万人になったときに、その要因、無料化以外の取組ということですけども、昨年度は到津の森の20周年ということもありました。様々なイベントを打ったりとか、あと記念式典をやったり、それから施設の充実としてレッサーパンダ舎の充実ですとか、それからエントランスのリニューアルですとか、そういったことに取り組みました。その結果、40万人を超えたということです。

それから施設の老朽化について、いろんな施設で20年経過して老朽化が進んでいるところです。これについては、今後、計画的な維持補修に引き続き努めてまいりたいと思います。それから、今回の検討の中で、価値の向上とか、そういったところでどんな意見が出たかということですけども、先ほどの3つの強みというところで御紹介いたしました。この3つの強みというのは、いろんな方から御意見をいただきました。ここを本当に充実させてほしいと、磨き上げてほしいと。そういったような御意見を多くいただきました。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** 三原委員。

**○委員（三原朝利君）** ありがとうございます。私は、入園者数が令和4年度ここまで増えたのは本当にいろんな努力をされたんだろうなと思いますので、ぜひ、集客あってこそと思いますので、引き続き御尽力をいただけたらなと思います。ぼんやりとした言い方になりますけれども、改めて到津の森にしかない価値というものを引き続き追求していただいて、やはりそういうふうなプロフェッショナルな力も必要だと思いますので、引き続き御尽力をいただけたらなと思います。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** ほかに質問、意見はございませんか。山内委員。

**○委員（山内涼成君）** 教えていただきたいことも含めて4点お願いします。

まず、環境学習はどういった内容で行われているのかというのが1点目。2点目は、コーヒー屋さんがオープンしましたがけれども、動線としての効果について教えてください。それから、今から集客というのが大きな課題になっていくと思いますけれども、新たな動物を入れる予定はないのかということと、最後は、災害対策が何か講じられているかどうかについてお願いします。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** 公園管理課長。

**○公園管理課長** まず、環境学習の内容についてです。大きくは2つありまして、小学校とかの社会見学のところ、それから園の特徴である林間学園というのがあります。特に、林間学園は、数日間にわたって子供さんたちに来ていただいて動物に触れていただく。それから、命の大切さや生物の多様性、こういったものを教える。さらには、新たな友達づくり。そういったものも含めて環境学習ということでやっております。

それから、新たな飲食店の効果ということですがけれども、到津の森のところで、そこで買ったコーヒーを片手に園の動物を見ていらっしやる市民の姿、そういったような姿を見かけます。そういった意味で、一定の効果があっているのではないかと考えております。

それから、集客対策のところ、これは非常に重要だと思っております。様々なイベント、それからいろんな動物の充実。動物の充実については、昨年度、貴重なインコを御寄附いただいたりとか、あとは日本国内の様々な動物園とのやり取りの中で充実させると、そういったことを考えております。

それから、災害対策ということですがけれども、例えば台風が来て木が倒れたとか、そういったことはあるんですけれども、そういったことは早急に適切な対応、こういったことに心がけていきたいと思っております。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** 山内委員。

**○委員（山内涼成君）** 災害対策というのは、木が倒れてくるとかというぐらいのレベルのものじゃなくて、例えば地震が来たときに動物がどういうふうな安全対策を取られているのか、それから逃げ出すようなことにはならないのかとか、そういう対策を聞かせてほしいなと思っております。

**○委員長（泉日出夫君）** 公園管理課長。

**○公園管理課長** 地震が来た場合に、例えば動物が逃げたときの対応とかということですがけれども、動物の中には非常に危険な動物がいます。そういった動物が万々が一、逃げ出した場合というのは、保健福祉のセクションであったり、動物管理のセクションであったり、そういったところとしっかり連携を取りながら適切な対応を取っていきたいと思っております。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** 山内委員。

**○委員（山内涼成君）** やはり公園管理としてね、動物を預かっているわけですから、災害対策には目を向けておくべきだと思いますし、そこで動物の命が落ちることもあるわけでありまして、そこはしっかり目を向けてほしいなと思っております。

それと、今人気の動物は何ですかね。

**○委員長（泉日出夫君）** 公園管理課長。

**○公園管理課長** 人気の動物はいろいろいるんですけれども、大型動物でいうと、象、キリン、ライオン、虎、こういったものが人気があります。また、小さな動物では、昨年リニューアルしましたレッサーパンダのところ、それから触れ合いができるモルモットですとか、そういったものがあるかと思っております。さらに御寄附いただいたインコなど貴重な鳥もいますので、そういったところは人気かなと思っております。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** 山内委員。

**○委員（山内涼成君）** 集客というのは、必ず、動物園というのは1人で行くところではないと思うんですよね。ですから、子供が集まる場所でないといかんという視点を持っていただきたい

いと思うんです。例えば、夏休みの宿題になりそうなブースを作るとか、昆虫関係のブースを作るだとか、そういう集客が望めるような、当然メインの動物も必要だろうし、そういう部分に注力していただきたいなと思います。

それと、コーヒー屋さんの分は、動線としての効果というものはあるんだろうと思いますけれども、そこをしっかりと検証してほしいです。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** 意見としてですね。

**○委員（山内涼成君）** はい。

**○委員長（泉日出夫君）** ほかに質問、意見ございませんでしょうか。浜口委員。

**○委員（浜口恒博君）** 私、孫が3人いるんですけども、福岡と久留米に今いるんですけども。八幡西区に元スイミングスクール、25メートルのプールの跡をやめて、とびくるところ、トランポリンとかがある施設、狭い施設なんですけども、そこに孫が、福岡の孫なんか、中学生の孫も小学生の孫も行きたいと言って、連れていったことあるんですけども。プールをやめて、プールの深さを利用してトランポリンにして、子供が喜ぶんですよ。福岡の方へも情報が子供にも入ってきますので。結構、値段も1時間ちょっとの間で2,000円とか3,000円近く取るんですけども。年間6万人ぐらい利用者があるということで。到津の森公園も、子供のほうから行きたいとか行ってみたいとか親にねだるような、おじいちゃん、おばあちゃんにねだるような施設じゃないと、なかなか来園者って伸びないのかなと思っているんですけども、子供の意見というのがどういふのをしてもらいたいとか、その辺の集約か何かされていますか。あれば教えてください。

**○委員長（泉日出夫君）** 公園管理課長。

**○公園管理課長** 子供さんから多くの意見をいただいたというわけではないんですけども、親御さんからは、今後の集客に向けた課題としまして、一つは雨のときに楽しめるような施設、そういう工夫をしてほしいと。そういったような御意見がありました。それから、いろんな遊具があるんですけども、これは市から指定管理者の民活に移転して、令和2年から令和3年に遊具を充実しました。それでかなりの子供さんに喜んでいただいております。先ほど委員がおっしゃったようなプールを今度はトランポリンに再利用するようなところ、知恵を絞れば、そういったことも出てこようかと思えます。しっかりと考えながら取り組んでいきたいと思えます。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** 浜口委員。

**○委員（浜口恒博君）** ありがとうございます。いろんな部分で呼び込むための施策というか、トランポリンを設けたり、ボルダリングとか、スペース的なこととかあると思うんですけども、そういったものと絡めながら集客するというのの一つの手かなと思っていますんで、スペース的な部分とか安全問題ありますけど、もし検討できたらしていただきたいということ。

もう一つ、僕、連休か何かのときに孫にせがまれて行ったんですけども、駐車場に入るまで

結構時間がかかって並んだような。それが大人にはストレスみたいな形になって、入るのに大分時間がかかって。料金の収集の仕方は、ちょっと覚えていないんですけど、たしか入り口で払うのか何か取るのか、そういったことで時間がかかってなかなか中に進めないような状況だったかなと思うんですけども。今、北九州空港ではカメラで撮って、そのままずっと入って、出るときに自分のナンバーを映し出してお金払って。ああいうシステムにすれば、少しその時間的な部分もストレスもなくなるかなと思いますので。満車になれば当然ずっと並びますけども、そういった部分も少し、要望ですけども、何かあれば検討していただいてですね。お金のかかることですけども、少しでも、行くのがおっくうの一つにそういった部分も入るかなと思いますので、ちょっと検討していただければと思います。以上です。

**○委員長（泉日出夫君）** ほかに質問、意見はございませんか。

なければ、以上で所管事務の調査を終わります。

本日は以上で閉会いたします。

---

建設建築委員会 委員長 泉 日出夫 ㊟